長洲町立長洲小学校　校長便り　№１３７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１１月２７日(月)

独り言　お陰様で

子供達の言動から感じることがある。自己中心主義の考え方だ。自分の都合が最優先され、他人様の事は考えていない。自分がどれだけの人達に支えられてきたのか、解っているのだろうか。少なくとも両親をはじめとする大人には感謝しても感謝しきれないほどの支援を受けてきたはずだ。高学年になればなるほどそれは理解できるはずだが…。

人は心身共に欲求が満たされてくると、それに対する感謝の念が薄れてくる。他からの支えのお陰で自分がこうして日々を送ることができることが、「当たり前」になっているのである。この状態は「当たり前」ではなく、「お陰様」ではないだろうか。そう言った感謝の念は、社会生活を送る上では重要な位置を占める。人間関係を円滑にする潤滑油のようなものだ。忘れないで欲しい。

学力向上を支えるもの【読書の重要性】

子供達は長文の問題や情報量の多い問題には苦労しますね。私なりに、何故そんなに苦労するのか考えてみました。原因は「読解力不足」です。読解力に影響するのは「語彙力」です。このような問題は、問題文が比較的長く、問題の全体像を把握しなければなりません。その時点で既にさじを投げる子供達が多いようです。そりゃそうですよね、意味不明な単語が並んでいて、しかも長文を読まなくてはいけない。意味が解らない文章を見て？答えを書かなければならないなんて、至難の業です。この状況を打破するためには、語彙力を上げ読解力を向上させるしかありません。その為にはやはり「読書」が重要なのです。

さて、本校では、子供達が主体的、協働的に学ぶことを目指しています。ではどのように学習を進めれば良いのか。私たち職員はもう一歩進んだ先の学びを考え、指導法の研究を進めています。一歩先の学びを文科省の唱える「深い学び」として、「深い学び」になるには何が必要なのかを日々考えています。

ここからは、私、澤田の個人見解です。「協働的な学び」とか「学び合い」ということを成立させるには、やはり言葉の力を磨く必要があります。普段の生活の中でその言葉が生きて使われていることが重要です。それが支えとなって、学習にも良い影響を与えるのです。残念なことに、現代の子供達は、会話の質はあまり高いとは言えません。印象として、「単語を感覚的に繋いでいる」だけであり、「ネット上のスラングや絵文字的なものを日常会話に当てはめる」という感じです。では、もっと語彙を増やし、会話に力を磨き、「言葉の力」を付けていくには何が必要か？　それは「読書」に尽きます。しかも、その読書は傍らに辞書を置き、分からない言葉があったらすぐに調べるというように、「語彙力UP型読書」であって欲しいものです。実際、私は今でも読書中の意味の解らない言葉や読めない漢字はすぐに調べるようにしています。今のうちが言葉をいちばん覚えます。保護者の皆様も、どうぞ、読書の重要性をご理解いただき、ご家庭でも「語彙力UP型読書」を展開してください。お願い致します。

シリーズ「自分を語る」＃１３７

地震（本震）発生は深夜でしたので、夜が明けるにつれ、周囲の生々しい状況が明らかになってきました。

翌朝は快晴、近所の被害は想像以上でした。大きな通りに出るための道路がブロック塀の倒壊により不通となり、瓦礫の撤去のために午前中の時間を全て費やしました。朝から職場へ連絡し、着任後初の授業参観日は休みを取る羽目に。心身共に仕事に行けるような状況ではなかったというのが本当のところでした。

本震当日は大きな余震が継続しており、ニュースで「１週間は震度７クラスの余震に注意」と報じられていたため、揺れがくる度に恐怖でした。まさかの本震でしたので、家族には、すぐに母屋の中を片付けてもまた同じ事が起きるかも？という気持ちがあり、１６日（土）は、外（小屋）で過ごす時間が非常に多かったですね。ライフラインは電気だけは地震直後から確保できました。他は全てアウトでした。先ず、飲み水はたまたまですが２ℓのペットボトルが６本ありましたので、１８日は持ちそうです。しかし、調理を考えるともう少し必要でした。水で困ったのは、断水によるトイレの水洗です。うちは両親と同居していますのでトイレの回数も多いという状況でしたので、「小」では流さず、「大」だけ流すという事にしました。断水ですので水がありませんから流せません。で、私と父と双子の息子達とで、八景水谷水源地まで２０ℓのポリタンクを持って水を確保しに行きましたね。今になってみれば良い思い出？ですが、便利な生活は当たり前ではないのだと痛感しました。ちょっと汚い話になりますが、「大」を流すためには、相当の勢いの水流が必要です。その為、バケツに水を注き分け、少し高い位置から勢いをつけ、それなりの量を投下します。最初は一回で成功することは稀で、何度かそれを繰り返していました。初めは１回流すのに１０ℓ程の水を使っていましたが、慣れてくるとその量も少しずつ減っていきました。土日で私は３回、八景水谷水源地を往復しました。

水の確保の次は、食事の確保です。土曜日の朝から食事会場は、我が家の小屋となりました。ブルーシートを敷き、そこにテーブル、座布団を並べての食事です。「リアルおままごと」という感じでした。調理器具はストーブとホットプレートです。ストーブで湯を沸かし、簡易味噌汁を作り、ホットプレートで買い置きの肉やその他の野菜を焼くことが基本でした。ストーブにはホイルに包んだ芋、餅なども常に焼いていて、何が食べられる様な状態になっていました。小屋が家族７人の生活スペースとなり、先の見えない不安の中にも家族の繋がりを感じることができ、少し安心することができました。

我が家には、私が以前住んでいたアパートから持ってきた普通の冷蔵庫と、両親が使っていた冷蔵庫があります。普通サイズの冷蔵庫が２台ですから、母屋にも２台という訳にはいかず、１台は小屋に置いてありました。震災当時、この２台の冷蔵庫が大活躍しました。土日、どこのお店にも食料が無いのです。我が家は冷蔵庫に「買い置き」があったため、冷凍食品や冷凍したカレー、ごはん、ヨーグルト、ジュース、カップ麺、即席めん、レトルト食品等々が結構ありました。家族７人、土曜日、日曜日は何とかなりそうでした。地震直後、水の他にもう一つ大変だったのは、寝る場所の確保でした。前震の１４日は車中泊、１５日は母屋で就寝のはずが、やっぱり車中泊でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）